

## PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : **02-069165**

(43)Date of publication of application : **08.03.1990**

---

(51)Int.Cl. **A23L 1/48  
A61K 35/78  
A61K 35/78  
A61K 35/78  
A61K 35/78**

---

(21)Application number : **63-219838** (71)Applicant : **OHASHI MITSUGI**  
(22)Date of filing : **02.09.1988** (72)Inventor : **OHASHI MITSUGI**

---

### **(54) CANCER SUPPRESSING FOOD**

#### **(57)Abstract:**

**PURPOSE:** To provide a food having activating action on cells of internal organs, inhibitory effects on cancers, etc., by constituting a food prepared by blending NATTO (fermented soybean paste) with dried small fishes, powdery garlic, aloe and Japanese radish and (or) a food obtained by mixing GASHINSAN of gastrointestinal drug with tea of sea tangle, garlic and vinegar.

**CONSTITUTION:** A cancer suppressing food consisting of (A) a mixed food prepared by grinding NATTO (fermented soybean paste), dried small fishes such as young sardine, powdery garlic, aloe of a plant of the Liliaceae and Japanese radish, respectively and blending and (or) (B) a mixed food obtained by mixing GASHINSAN of gastrointestinal drug, tea of sea tangle, garlic and vinegar. Effects such as alleviation of cancerous symptoms, suppression of metastase of cancerous cell, etc., can be obtained by taking the mixed food A and (or) the fixed food B.

---

### **LEGAL STATUS**

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

## ⑫ 公開特許公報 (A)

平2-69165

⑬ Int. Cl. 5

A 23 L 1/48  
A 61 K 35/78

識別記号

府内整理番号

ACS  
ACV  
ADP  
ADU W

8114-4B

⑭ 公開 平成2年(1990)3月8日

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全3頁)

## ⑮ 発明の名称 癌抑制食品

⑯ 特 願 昭63-219838

⑰ 出 願 昭63(1988)9月2日

⑱ 発明者 大橋 貢 静岡県富士市三ツ沢572-12

⑲ 出願人 大橋 貢 静岡県富士市三ツ沢572-12

⑳ 代理人 弁理士 東山 喬彦

## 明細書

## 1. 発明の名称

癌抑制食品

## 2. 特許請求の範囲

下記A、Bのいずれか一方または双方を含んで成る癌抑制食品。

A: 納豆、ちりめん、粉末状ガーリック、アロエ、及び大根をそれぞれ擂潰した後、これらを混練して成る混合食品。

B: 我神散、こぶ茶、ガーリック、酢を混練して成る混合食品。

## 3. 発明の詳細な説明

## 《発明の目的》

## 《産業上の利用分野》

本発明は体内、特に内臓諸器官の細胞の働きを正常化ないし活性化し、癌を抑制したり、更には糖尿病、腎臓病の治癒効果をもする食品に関するものである。

## 《発明の背景》

癌はわが国では死亡原因第一位の病気であり、

その原因や治療方法は今のところ確立されていない。現在、癌の治療方法として広く用いられているのは外科手術により癌細胞を取り除く方法、放射線療法、化学療法であるが、外科手術は広く癌細胞が転移しているときは効果が少ない。また放射線療法や化学療法では正常細胞をも破壊してしまい副作用を生じる。このような現状において特に完治の難しい末期癌にあっては、癌の症状をいかに和らげ、且つ延命させるかが問題となっている。ところで食品の有する種々の成分が癌抑制作用を有することは経験的に知られているところであって、これらの食品を適当な量、適当な割合で摂取することにより、痛み、発疹などの癌の諸症状を緩和し、延命効果をもたらすであろうとの知見に基づき、種々の提案がすでに試みられている。

## 《開発を試みた技術的事項》

本発明はこのような背景を更に究明し、特に末期癌に対しても有効な延命効果を得ることのできる成分を有する特定の食品を数多くの試行

の中から見出し、これらを主成分とする癌抑制食品の開発を試みたものである。

(発明の構成)

(目的達成の手段)

即ち本発明たる癌抑制食品は、

A：納豆、ちりめん、粉末状ガーリック、アロエ、及び大根をそれぞれ擂潰した後、これらを混練して成る混合食品と、

B：我神散、こぶ茶、ガーリック、酢を混練して成る混合食品

とのいずれか一方または双方を含んで成ることを特徴とするものであり、もって癌の諸症状を緩和し、延命効果をもたらすという目的を達成するものである。

まず混合食品Aに使用する構成食品を説明する。納豆は通常市販されているものでよいが、小粒のものが好ましい。ちりめんはしらすなどの小魚を素干ししたもので、油焼けを起こしたり、酸敗臭を生じているものは避けなければならない。粉末状ガーリックは香味料として

乾燥したものを粉状に圧潰したものであり、通常市販されているものでよい。酢は酸度4.2%程度の穀物酢を使用することが食味の点で好ましい。ガーリックは混合食品Aに使用するものと同様である。

(実施例)

次に本発明の実施例を説明する。混合食品Aは、まず小粒の納豆30～50gを包丁で挽き割り、擂鉢内で潰すようにして圧潰する。ちりめんは油焼けや酸敗臭のないものを大匙2～3杯、粉末状ガーリックは15～20g用意する。アロエはシャボンアロエを用い、葉の幅の大きいものを5～8cm用意し、葉の表皮部を取り除き、すき透った緑色をした葉肉部分を擂鉢内でよく擂潰する。また大根は下ろし金を使用して擂潰する。その後、圧潰した納豆、ちりめん、粉末状ガーリック、擂潰したアロエ及び擂潰した大根を一つの容器に入れ、よく混練して混合食品Aを製造する。次に混合食品Bは我神散3～3.5g、こぶ茶1.5～2g、ガーリック2～2.5g、穀

市販されているものでもよいが、好ましくはニンニクを擦り下ろしたものを天日干しして粉末状にしたもののがよい。アロエはアロエ属(Aloe)に属するユリ科植物の総称であって、これらはすべて適用できるが、その中でも茎が殆どなく葉に白い斑が横列にあるシャボンアロエ(A. sapanaria)や、丈が高く伸びて茎の細いキダチアロエ(A. arborescens var. natalensis)を使用することが好ましい。また葉の肉が厚く、幅の広い葉の付け根部分を使用することがより好ましい。大根は通常の宮重大根でよいが、根部にジアスターを及びビタミンCをより多量に含有している他の種類の大根を使用してもよい。また当然のことであるが、地中からとれたての新鮮なものがよい。ジアスター及びビタミンCはいずれも熱に弱いため、熱を加えることなく、生のものをそのまま使用する。次に混合食品Bを構成する食品について説明すると、我神散は本来腎臓薬であるが、各種の病気に効果があることが知られている。こぶ茶は昆布等の海草を

物酢大匙1～2杯を用意し、これを一つの容器に入れ、よく攪拌して製造する。

次に本発明たる癌抑制食品の摂取方法について述べると、これらは次の三通りの方法がある。まず混合食品Aのみを単独で摂取する方法であるが、混合食品Aを一日当たり大匙3杯(約45g)ずつそのまま摂取する。勿論、朝夕二回に分けて、一日の総量が45g程度となるように摂取してもよい。混合食品Aは癌に特有な身体の赤い斑点を生じている場合や、拒食症を伴っている場合にこのような症状を緩和する目的で摂取する。次に混合食品Bのみを単独で摂取する方法であるが、食品Bを大匙1杯(約15g)ずつ茶碗等に入れ、その中に湯を注いで総量100cc程度を朝、夕1杯ずつ服用する。混合食品Bは癌細胞の転移を抑制する目的で摂取する。次に混合食品A及び混合食品Bの両方を摂取する方法であるが、それぞれを単独で摂取するときの方法により、朝、夕各々を摂取する。この方法は癌の諸症状を緩和し、併せて癌細胞の転移

を細胞する目的で行う。尚、癌の症状の一つに「かゆみ」があるが、この症状を緩和するためには別途、三井物産株式会社の販売に係る商品名「グロスミン」を所定量、本発明の食品と併せ服用すると効果が得られる。

（発明の効果）

混合食品Aを摂取することにより、癌細胞を縮小させることができ、身体の赤い斑点などの癌特有な症状や、拒食症状を緩和することができる。また食品Bを摂取することにより、癌細胞の転移を抑制することができる。更に混合食品A及び混合食品Bを摂取すれば、癌の諸症状の緩和、及び癌細胞の転移の抑制の双方の効果を得ることができる。

治療例としては本発明者自身が身体の赤い斑点や拒食症状などの癌の諸症状が生じた後、継続して約一ヶ月間、混合食品A、Bを摂取した結果、赤い斑点は消失し、食欲が増進した。また癌の諸症状が緩和した後、今日に至るまで二年三ヶ月、混合食品A、Bを摂取しているが、

癌細胞の転移はなく、また癌の諸症状の悪化もみられない。

尚、本発明の食品は細胞の活性化を促し、内臓諸器官の活動を活発化させるもので、癌の治療のほか、肝機能障害、糖尿病等の症状を改善する。勿論、本発明に係る癌抑制食品を摂取して症状の改善をみたとしても、糖分を一時に大量に摂取すれば本発明の効果は半減する。従って本発明の効果を充分に発揮させるには糖分、塩分等の過剰な摂取を防ぐなど、総合的な栄養管理が必要なことは言うまでもない。

出願人 大 橋

貢

代理人 東 山 喬

彦

印